


ひまわり通信



2014年度 10月 7号

9月も保育所体験や育児講座に参加していただき、ありがとうございました。

10月も楽しいイベントを考えています。ぜひ参加して下さいね。

【子育てに絵本を】

————— 絵本がそだてるもの —————

なぜ絵本を読んでもらうことが、子どもの発達にとってよいのでしょうか???

それは絵本を読んでもらうことで、「子どもの心が動く」からです。ドキドキしたり・・・ハラハラしたり・・・悲しくなったり。そんな言葉で言い表しきれないほどの心の動きを、子どもは絵本を読んでもらいながら体験しているからです。

子どもたちは主人公に同化して、気持ちを一緒にして共感しているのです。そんなふうに「心が動く」とき心の中にひだが生まれて、それが深くなっていくのだと思います。だから『心が育つ』のです。

子どもたちは、音や形をまずは体感で感じ取ります。この体感で感じとるのが一番豊かな時期は、字が読めるようになる（あるいは字を読んだら分るようになる）と理解できるようになる）前までの幼児期です。



こんなことがあります。

2歳半と4歳の子どもと彫刻展を見に行くと・・・2歳半の子どもは、ひとつひとつの作品をみてただひたすら感動しているのです。（自分の直感でとらえて）『わあ～、あぶないだね』『高い高いなーれだね』などなど。それはもう体中で感動にひたっている姿です。

ところがひらがなを読み始めていた4歳の子は「みらい、だって」「とう（塔）だって」「これなんて書いてあるの？」という理解のしかたになるのです。

体感と直感と感動に満ちた、文字のない世界を、子どもたちができるだけ大きくなるまで体験させてあげたいものですね。

